

目標年次について

- 1 大阪 21 世紀の環境総合計画（平成 14 年 3 月）
 - ・長期的な目標：概ね 2025 年を目途として設定
 - ・中期的な目標：原則として 2010（平成 22）年度を目途として設定

- 2 国等の計画
 - (1) 第三次環境基本計画（平成 18 年 4 月）
 - ・我が国及び世界の将来を長期にわたって展望しつつ、2025 年頃までに実現すべき社会を見据えながら、当面の環境政策の方向と取組の枠組みを明らかにしていきます。
 - ・長期的な対策と中期的な対策、さらには当面の対策についてバランスのとれたシナリオを示すことにより施策の展開を図っていくため、50 年といった長期間の環境政策のビジョン（超長期ビジョン）を示します。

 - (2) 国連気候変動サミット 鳩山首相演説（平成 21 年 9 月）
 - ・わが国も長期の削減目標を定めることを積極的に確約すべきだと考えている。中期目標についても、1990 年比で 2020 年までに 25%削減を目指す。

 - (3) 低炭素社会づくり行動計画（平成 20 年 7 月）
 - ・日本としても 2050 年までの長期目標として、現状から 60～80%の削減を行う。
 - ・また、2050 年半減という長期目標を実現するため、世界全体の排出量を今後 10 年から 20 年程度の間にピークアウトさせる。

 - (4) 循環型社会形成推進基本計画（平成 20 年 3 月）
 - ・目標年次は 平成 37 年度（2025 年度）頃の長期的な社会を見通しつつ、平成 27 年度（2015 年度）に設定します。

 - (5) 第 10 回生物多様性条約締約国会議 日本政府提案(素案)（平成 21 年 10 月）
 - ・「生物多様性の損失を止め、その状態を現状以上に豊かなものとする。」などの 2050 年の中長期目標を達成するため、「生物多様性の状態を科学的知見に基づき地球規模で分析・把握する。」などの 2020 年の短期目標を設定している。

 - (6) 近畿圏広域地方計画（平成 21 年 8 月）
 - ・本計画の期間は、21 世紀前半期を展望しつつ、今後概ね 10 年間とする。

 - (7) 関西ビジョン 2020（平成 20 年 10 月）（社）関西経済連合会
 - ・本ビジョンは、概ね 10 年先となる 2020 年に向けて、関西の「ありたき姿（ありたい姿 + あるべき姿）」と、それを実現していくための取り組みを示そうとするものである。